

【投信調査室コラム】

日本版ISAの道 その56

NISAで何を買う？ 既存投資家ではハイールド債・REIT・日本株、新規投資家では日本株・グローバル債・アロケーション柔軟型が人気だが…。

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

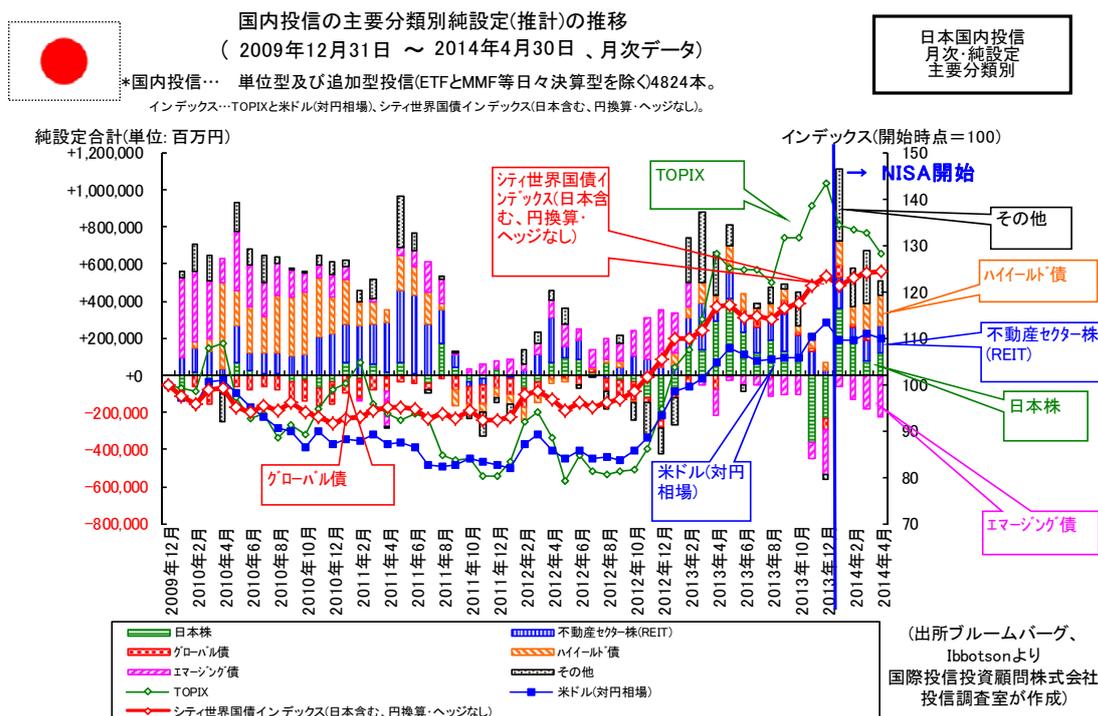
NISA開始から4カ月経過

少額投資非課税制度(NISA)が始まり4カ月以上が経過した。2014年5月22日付日本経済新聞電子版には「メガバンクなどの大手銀行や大手信託銀行の少額投資非課税制度(NISA)口座で、バランス型の投資信託が人気商品になりつつある。従来の課税口座では依然として米国のハイールド債や不動産投資信託(REIT)など高利回りの単一資産に投資し、高水準の分配金を払う投信が人気だが、NISA口座ではバランス型投信に加え、非毎月分配型の商品にも資金が集まっており、売れ筋商品に変化の兆しがある。」と報じていた(URLは後述[参考ホームページ])。

NISA投資家の志向に変化が見られているのであろうか？ 投信の資金動向について2014年4月までの月次でみる。NISA投資家の属性や投資金額についてはまだデータが整備されていないため、既存投資家を中心と思われる投信全体と、投資の未経験者層(新規投資家)が中心と思われるNISA向けファンドとに分けてみる(詳しくは2014年1月20日付日本版ISAの道その42参照~URLは後述[参考ホームページ])。

既存投資家(投信全体)ではハイールド債・REIT・日本株

下記グラフは「日本の単位型及びETFを除く追加型投信(MMF等日々決算型を除く)」つまり概ね既存投資家(投信全体)を示す純設定の推移である。2014年4月に+2806億円と、4カ月連続の資金純流入である。それを投資対象(主要分類)別にみると、1位はハイールド債ファンド、2位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンドとなっている。



日本の投信の分類別資金純流出入(資金純流入の大きい順)

*単位型及び追加型投信(ETFとMMF等日々決算型を除く)。

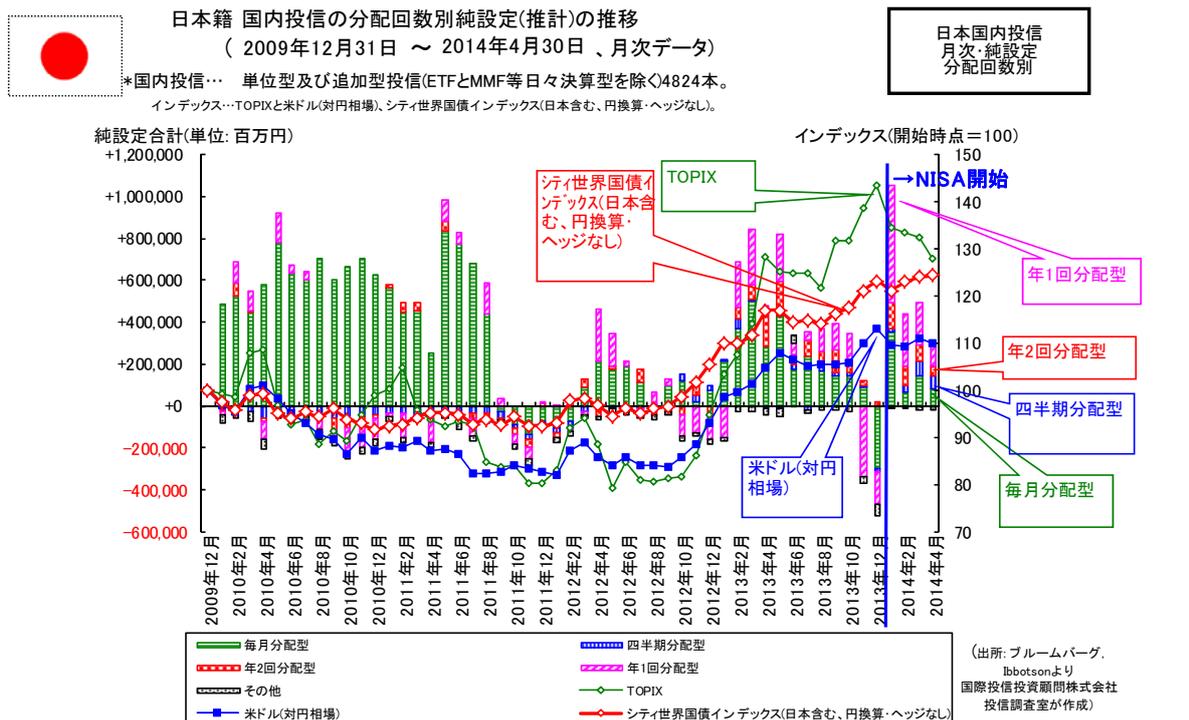
2014/04/30



順位	分類名 (Morningstar Global Category)	資金純流入 2014年4月 (百万円)	資金 純流入 2014年・年初来 (百万円)	資金純流入 2013年1年間 (百万円)	純資産 (百万円)
1	ハイイールド債	+185,047	+581,063	+917,319	6,017,072
2	不動産セクター株(REIT)	+147,978	+507,498	+1,480,360	8,871,124
3	日本株	+115,076	+724,379	+1,243,538	8,111,205
4	グローバル株	+43,695	+184,328	+857,816	4,972,715
5	日本債	+39,107	+141,172	+82,745	1,722,330
6	アセットアロケーション柔軟型	+34,538	+217,262	+366,119	715,638
7	欧州大型株	+16,684	+107,156	+164,574	348,574
8	米国大型ブレンド株	+13,783	+266,368	+738,419	1,541,202
9	アジアパシフィック債	+10,283	+67,269	-869,983	2,174,047
10	その他オルタナティブ	+10,157	+98,441	+85,500	268,249
11	米国債券	+7,179	+193,700	+654,977	1,296,597
12	日本マネー・プール	+3,374	-23,895	+39,158	59,711
13	マーケット・ニュートラル	+2,750	+3,982	+2,163	21,171
14	多種オルタナティブ	+2,712	+2,130	-22,754	332,892
15	商品・バスケット	+754	+2,239	-3,867	71,344
16	ターゲットデート2021-2045	+138	+939	+1,126	28,445
17	インフレ連動	-24	-86	-2,086	5,670
18	通貨	-85	-120	+2,043	6,539
19	アセットアロケーション慎重型	-227	+17,706	+18,288	331,243
20	アジア株	-767	-1,623	-2,963	13,062
21	ユーロ債	-1,352	+7,254	-39,497	116,234
22	ロング・ショート	-3,419	-10,323	-29,885	47,638
23	中国株	-4,045	-8,391	-206,683	261,670
24	アジア株(除く日本)	-5,580	+45,567	+199,743	771,630
25	アセットアロケーション標準型	-9,726	-32,351	-233,941	1,152,893
26	CB	-10,682	-35,749	-126,273	332,257
27	インド株	-11,031	-30,265	-112,225	355,581
28	グローバル債	-20,337	+86,371	-93,644	7,501,349
29	アセットアロケーション積極型	-24,167	-133,979	-282,579	2,634,559
30	エマージング株	-39,096	-113,997	-88,467	1,778,057
31	エマージング債	-222,126	-609,991	-595,095	5,878,143
	全31分類の合計	+280,590	+2,254,055	+4,143,945	57,738,841

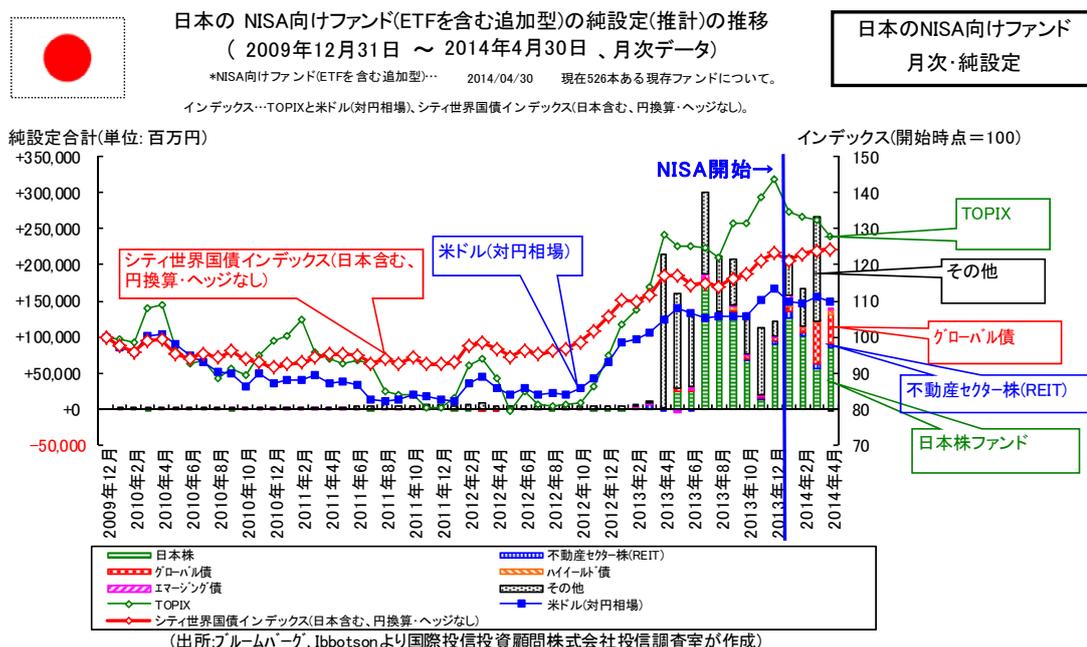
(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

尚、先の日本経済新聞電子版に出ていた「非毎月分配型の商品にも資金が集まっており、売れ筋商品に変化の兆しがある。」についても見ておくと、次頁の分配頻度(回数)別に示される通り、年1回分配型ファンドが資金を集めている。ただ、先の投資対象(主要分類)別に見たグラフに示された通り、分配頻度の少ない日本株ファンドが資金を集めたことが主因である可能性はある。2010年から2011年半ばまでが毎月分配型ファンドばかりだったのは、毎月分配型のエマージング債ファンド、ハイイールド債ファンド、不動産セクター(REIT)ファンドが資金を当時たくさん集めていたためであろう。これは単に投資対象の問題であり、その意味で、分配頻度の減少、非毎月分配型の商品に資金が集まっているとも言い切れないところである。



新規投資家(NISA 向けファンド)では日本株・グローバル債・アロケーション柔軟型

次に、NISA 向けと思われる投信について純設定の推移を見る。2014年4月の純設定額は+1400億円と、NISA が始まった2014年1月から最も小さい資金純流入となっている(*NISA 向けファンド…後述※欄参照)。2014年4月の純流入額が年初来で最も小さいといっても、これはNISA だけでなく投信全体にも共通する傾向である。次いで純設定を投資対象(主要分類)別にみると、1位は日本株ファンド、2位はグローバル債ファンド、3位はアロケーション柔軟型ファンド(*グラフでは「その他」に含まれる)となっている。先の既存投資家(投信全体)ではかなり継続的に人気のある不動産セクター(REIT)ファンドや、2014年に入ってから(2010年に続き)人気の出ているハイイールド債ファンドは、それほどの人気とはなっていないのが特徴的である。



日本のNISA向けファンドの分類別月間資金純流出入(資金純流入の大きい順)

*NISA向けファンド・・・ETFを含む追加型。

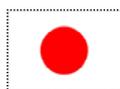
2014/04/30

順位	分類名 (Morningstar Global Category)	資金 純流入 2014年4月 (百万円)	資金 純流入 2014年・年初来 (百万円)	資金 純流入 2013年1年間 (百万円)	純資産 (百万円)
1	日本株	+86,889	+375,313	+672,619	1,054,544
2	グローバル債	+40,634	+108,809	+26,172	148,066
3	アセットアロケーション柔軟型	+25,931	+142,294	+100,594	248,534
4	ハイイールド債	+7,672	+20,118	+8,232	28,711
5	日本債	+4,239	+13,221	+10,094	29,287
6	不動産セクター株(REIT)	+4,098	+24,159	+15,295	61,562
7	欧州大型株	+3,713	+47,242	+83,958	144,333
8	アジアパシフィック債	+2,387	+6,869	+216	7,226
9	米国債券	+2,374	+13,053	+18,287	31,602
10	エマージング債	+1,362	+10,816	+20,333	35,338
11	CB	+676	+1,707	+14,294	16,298
12	中国株	+212	+11,503	+0	10,801
13	その他オルタナティブ	+191	+1,678	+947	2,052
14	アセットアロケーション標準型	+169	+1,211	+1,253	2,535
15	アジア株(除く日本)	+22	+203	+19	234
16	アセットアロケーション慎重型	+21	+93	+22	116
17	ユーロ債	+16	+2,328	+0	2,361
18	商品・バスケット	+0	+27	+2	30
19	日本マネー・プール	-146	-390	+874	484
20	多種オルタナティブ	-1,782	-8,108	-25,103	30,714
21	エマージング株	-1,811	-457	+35,322	58,511
22	アセットアロケーション積極型	-2,682	-2,097	+74,669	73,473
23	米国大型ブレント株	-8,385	+88,450	+213,934	331,286
24	グローバル株	-25,745	-70,012	+343,040	351,271
	全24分類の合計	+140,055	+788,029	+1,615,072	2,669,369

(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

※「NISA向けファンド」・・・投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連)法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2014年4月30日時点で526本となった。

前頁グラフで「その他」に含まれるアロケーションファンドの各分類が見えにくいので、NISA向けとされるアセットアロケーションファンドだけを見る。アセットアロケーションファンドには資産配分手法などで4種類あり、株式に70~85%を配分し続ける「積極型」と言う種類は純流出が続いており(22位)、株式に50~70%を配分し続ける「標準型」や株式に20~50%を配分し続ける「慎重型」は純流入ではあるものの小さい(14位と16位)。そして株式などの資産配分を柔軟に変動させる「柔軟型」はかなり資金純流入となっている(3位)。年初来では2位である。

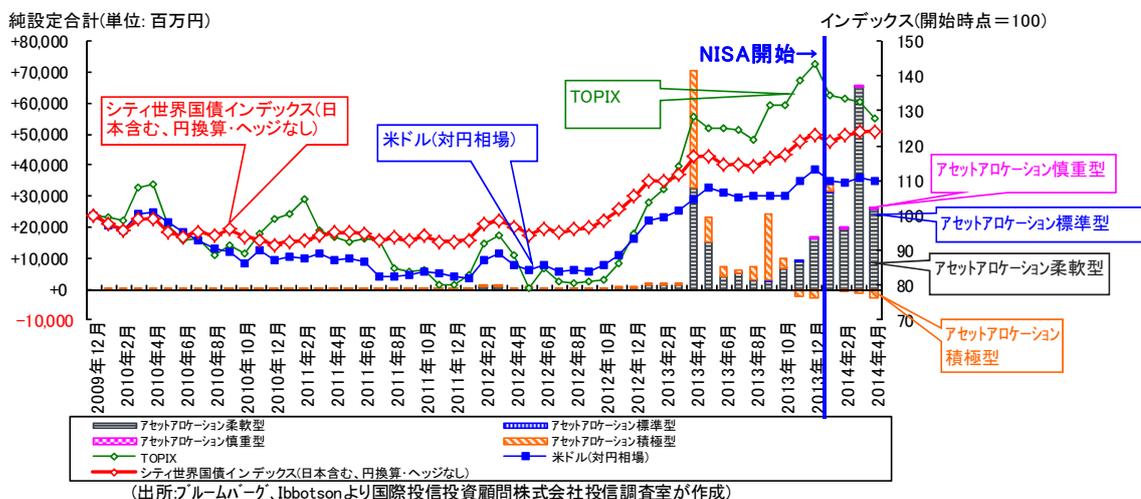


日本の NISA向けアロケーション型ファンド(追加型)の純設定(推計)の推移
(2009年12月31日 ~ 2014年4月30日、月次データ)

*NISA向けアロケーション型ファンド(追加型)… 2014/04/30 現在526本ある現存ファンドについて。

インデックス…TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

NISA向け
アロケーション型ファンド
月次・純設定



アセットアロケーションファンドと言うと、NISA 開始前、政府広報オンライン NISA 関連サイトで「国内・先進国・新興国の株・債券に 6 分の 1 ずつ投資する長期分散投資では安定的に収益を得られる結果となる傾向がある」(URL は後述[参考ホームページ])など、株式などに一定割合を配分し続けることが薦められている場合も見られたが、これまでのデータを見る限りでは配分し続けるより、アセットアロケーションファンドのファンドマネージャーに「柔軟」に乗り換えてもらう事が好まれている様に見える。ただ、これは、アセットアロケーションファンド以外のファンドで投信を保有する投資家が、「柔軟」に設定・解約をすること、ある時は日本株、ある時はハイイールド債と言った具合に乗り換えることにも言えそうだ。

なお、大手証券会社の最新 NISA 売れ筋商品を見ておくと、圧倒的に日本株インデックスファンドと毎月分配型の REIT ファンド(一部通貨選択型)が人気となっている。その中、アセットアロケーションファンドは、「積極型」への人気の一部見られる程度だ(URL は後述[参考ホームページ])。このあたり、先のデータとやや一致しない所もある。分配頻度も含め、引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見て NISA 動向を判断していきたいものである。

[参考ホームページ]

2014 年 5 月 22 日付け日本経済新聞「大手銀行の投信売れ筋、NISAで変化の兆し」...

「 <http://www.nikkei.com/markets/column/funds.aspx> 」、2014 年 1 月 20 日付日本版 ISA の道その 42「NISA で何を買う? 2014 年最初の週は新規投資家(NISA 向けファンド)ではアセットアロケーション等ファンドと日本株ファンドが中心で、既存投資家(投信全体)では日本株ファンドと REIT ファンドが中心のようである。」...

「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140120.pdf> 」、政府広報オンライン NISA 関連サイト...

「 <http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201306/3.html> 」、野村証券(野村ネット&コール)のNISA口座投資

信託 買付件数ランキング...「 <http://www.nomura.co.jp/nisa/nisaranking/index.html> 」、大和証券の NISA 口座

買付金額ランキング...「 <http://www.daiwa.jp/service/isa/ranking.html> 」、SBI証券の NISA 口座ランキング...

「 <https://www.sbisec.co.jp/> 」、楽天証券の NISA ランキング...「 <https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/> 」、カブ

ドットコム証券の NISA 口座 ETF 買付ランキング...「 http://kabu.com/info/nisa/ranking_stock.asp 」、松井証券

の NISA の ETF 買いランキング&REIT 買いランキング...「 <http://www.matsui.co.jp/news/ranking/index.html> 」。

以上

(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。
- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 - 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 - 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
 - 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクの開発したものです。